

第2回清水町地域福祉計画策定委員会 会議録（要約）

日時 令和7年1月16日（木） 17時00分～18時30分

場所 保健福祉センター2階 会議室

【出席者】

委員：真野篤、土屋博敬、會田豊、高橋やよい、武田静江、堀敦子、松田恵子、秋島由貴
（欠席：石井康浩）

事務局：保健福祉課長補佐（阿部俊夫）、福祉係長（佐々木淳）、

説明員：澤村和裕（㈱ぎょうせい上席主任研究員）、佐藤結生（同主任調査員）

傍聴者 0名

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

（1）清水町地域福祉計画素案について

※ 説明員（㈱ぎょうせい 澤村主任）より、計画素案の内容、第2期計画との施策体系の比較について、資料に基づき説明

【以下、質疑応答】

（真野委員長） 長年、役場職員として勤務してきて感じてきたことだが、現在の相談対応は、一つの課や係が単独で行う形が多く、一人の相談者に対して複数の課や係に関する内容が含まれる場合、1対1の対応では限界がある。そういったときに、関係する課や係の職員を一同に集めて、相談者の話を総合的に聞き、対応を協議する場を設けることで、より迅速かつ的確な対応が可能になるのではないかと思う。

（會田委員） アンケート結果について、計画の中には抜粋で掲載されているが、全ての結果は出さないということか。

（事務局（阿部）） 前回と同様に、資料編として付けることを考えている。

（會田委員） できれば、策定委員会の場でも出してもらえれば、各団体で出来ることなども出てくるのではないかと思った。また、記述式の自由意見の部分についても、せっかく町民の方が意見を出してくださっているので、それも出していただけるといいと思った。

それから、外出困難な高齢者に対する買い物や通院の外出支援について、また、清水町コミュニティバスの廃止に伴う新たな外出手段の検討とあるが、今現在、買い物送迎や通院については、在宅支援の輸送サービスというものがあり、買い物の利用者については、延べ5,000件近くいる状況である。これ以外に何かを考えているのかどうか。

もう一つ、社会福祉協議会と連携して地域で実施する生涯学習やスポーツに関するイベントの実施、運営を支援しますとあるが、生涯学習だと社会教育、スポーツだと体育協会が専門になると思う。

(説明員(澤村)) イベントの主体として、こういった事例があるので記載したところ。

(會田委員) 計画としては、他の団体ともつながったほうがいいと思う。

(真野委員長) 「しみず福祉マップ」について、正直、私はこれまで目にしたことが無くて、内容がよくわかっていない。民生委員の立場から言うと、例えば富良野方面では「支援マップ」というものが非常に整備されていて、地域や町内会のどこに、どういう支援が必要な家庭があるかといった情報が地図上で把握できるようになっている。そういったものを支援マップとして理解している。

それに対し、この「しみず福祉マップ」というのは、話を聞く限りでは、清水町にある高齢者や障害者向けのサービス事業所の一覧のようなのだが、それは「マップ」というより「支援機関一覧表」ではないかと思う。もう少し内容に即した名称に見直す必要があるのではないか。

(松田委員) 障害者の家族の立場としてお話しすると、「こういう困りごとがあるから、ちょっと助けが必要」というときに、すぐに対応先が分かるような、いわゆる「マップ」ではないけれど、「困りごとの一覧」や「支援案内図」のようなものがあると助かる。

(真野委員長) 今の松田委員の話に関連するが、フローチャートのような図で視覚的に示したほうが分かりやすいのではないかと思う。現在は、「町のホームページを見てください」と案内されるケースが多く、そこでは文章中心の説明になりがちである。例えば、「障害についての相談」を起点にして、どのような機関がどのように関わってくるのか、そして最終的には道や国の制度につながる、というような構造を可視化すると、町民にも理解しやすくなると思う。

(松田委員) 放課後支援などの情報も、視覚的に見えるとわかりやすいし、制度を利用しない一般の人たちにとっても、「あそこにそういう支援があるんだ」という気づきが生まれ、地域の中で会話やつながりが生まれてくると思う。

(真野委員長) 先ほど話のあった「生涯学習のイベント運営」について、これは中学生の部活動支援の一環で、社会福祉協議会の方がバスや車での送迎などを担ってくださっていることが関係していると思う。例えば、体育館やグラウンドなど、中学校以外の施設を利用する際に、社会福祉協議会が移動手段を提供してくださっているという点で、社会福祉協議会の名前が出ているのではないか

と考えている。ただし、先ほど會田委員からもありましたように、基本的には学校教育や社会教育、さらにはスポーツ少年団など、各団体が連携しながらイベントを運営していくことが大事だと感じている。

(説明員(澤村)) この素案の中の「今後の取り組み」の部分については、前回の第2期計画を基にした項目、それから追加・修正候補としていくつか項目建てしているが、これらをすべて載せた方がよいか、それとも前回のように、ある程度重要な項目に絞って載せるべきか。

(真野委員長) 個人的な意見としては、計画が文章だけでダラダラと項目が並んでいると、なかなか読む気になれないというのが正直なところ。もちろん、一般的な計画書はそういう形式ではあるが、松田委員からも話があったように、文章だけでなく、フローチャートや画像などの視覚的な工夫を取り入れることによって、シンプルでわかりやすくなるのではないかと。

(土屋副委員長) 小学生を対象に、町内の福祉事業所と連携して福祉の授業を実施していますとの事だが、福祉の事業所として小学校の授業を持ってきたりした記憶が無い。どんなことを実施しているのか。

(事務局(阿部)) 記載は進行形になっているが、過去に実施したことがあるということ。平成29年頃に、小学校6年生を対象とした福祉教育の一環として、福祉施設等の見学・学習プログラムを行ったことがある。子どもたちはグループに分かれて、いろいろな福祉事業所を訪問し、職員の方から直接話を聞き、そこで学んだことを発表する時間を設けた。最後には認知症サポーター講座も実施し、オレンジリングを配布して終了という流れだった。

事業所の協力調整や授業時間の確保などに労力はかかったが、非常に意義のある活動だったと感じている。現在は学校側の事情などもあり、すぐに再開するのは難しい部分もあるが、機会があればまたぜひ実施したいと考えている。

(土屋副委員長) 以前は清水小学校で行っていたが、途切れてしまった。機会があれば、ぜひまた学校にも出向きたいと思っていて、2年ほど前に私から学校側に話をさせてもらったものの、再開には至っていない。福祉を知ってもらう機会が実は減っている気がする。

(説明員(澤村)) 計画の表現と認識が合っていないので、実態に合うように表現を変える。さらに、今後も実施できるようにということとする。

(土屋副委員長) もしかすると、前回回答があったかもしれないが、清水町に戻ってきたい、清水町に住み続けたいという、明確な理由みたいなものはあるのか。これまで自分の職場で「なぜこの職員は辞めずに頑張ってくれているのか」ということを、きちんと聞いたことがなかったが、ある勉強会で「そうした情報こそが強みになる」との指摘があり、今後はそれを把握し、強みに変えていきたいと思っている。

例えば、「清水町に残りたい」と考える人は、どのような点に町の魅力を感じているのかを丁寧に聞き出し、把握していくことが重要ではないか。それを知ることで、単に「住みたい」「働きたい」という表面的な理由だけではなく、本当の魅力や定着の要因が見えてくると思う。

（土屋副委員長） ボランティア活動について、自分の中では、まだボランティアを一生懸命やろうという気持ちの余裕はないが、実際にボランティア活動を行っている人は、どのような思いで参加しているのか。

（事務局（阿部）） ボランティアに関わってくれている方々は、年齢が高くなってきている一方で、強い使命感や「役割があるから頑張れる」という思いをもって活動している人が多い。ただし、後継者が見つからなかったり、新しく参加する人が少なかったりするという課題もある。

（真野委員長） 社会福祉協議会が初めて災害時支援のボランティアセンターを立ち上げたとき、当時の災害支援活動では、大きな社会的注目や達成感があり、多くの人が使命感を持って参加していた。一方で、認知症支援などの福祉系ボランティア活動には関心が集まりにくく、参加意識が低いのが現状である。少額の謝礼やジャージの支給など、わずかでも報酬や感謝の形があることで、達成感とやりがいが高まり、活動の持続性が増すのではないかと感じている。

（松田委員） 「ボランティア＝無償」というイメージから、受ける側が遠慮してしまったり、支援を頼みにくくなっているのではないか。「一時的に手を貸してほしい」といったニーズに対して、時給換算よりも低価格で気軽に依頼・提供できる、有償ボランティアの仕組みがあれば、助かる人も多いと思う。

（２）パブリックコメントの実施について

※ ２月３日～２１日まで意見募集を実施。その後、提出された意見について、次回の策定委員会にて報告する旨、事務局より説明。

４ 第３回策定委員会について

※ 事務局より、日時等詳細が決まり次第、各委員へ通知する旨説明。

５ 閉会